

近畿大学農学部・奈良県等の連携による小菊やバラ栽培の総合的病虫管理技術を研究

< 奈良県 >

市町村・集落の名称	平群町（平群町農業委員会）
協働の相手（企業や大学等）の名称	近畿大学農学部 奈良県北部農林振興事務所 奈良県農業総合センター
仲介者・コーディネーターの名称	なし
協働のポイント	<p>・平群町における総合的病害虫管理（IPM）技術の確立 本取り組みは、地域農業の振興や環境への負荷軽減に大きく寄与するものであるが、高度で専門的な技術を必要とすることを踏まえて町農業委員会で協働先を選定し、各機関の専門分野を有効に機能させながら一体となって課題解決に当たっている。</p>
協働のきっかけ・経緯	<p>平群町の安定した農業経営基盤の確立に向け、これまでも関係機関との連携を図ってきたが、地域農業が抱える高度な課題解決や、新たな独自ブランドの開発を行ううえで大学等の研究機関によるサポートを必要としていた。</p> <p>そこで、平成17年10月に地元の近畿大学農学部へ協働活動を依頼し平成18年6月に同大学教授を町に招いて現地調査を行い協議した結果、協働活動を実施することとなった。そして、「平群町の特産品である小菊・バラの総合的病害虫管理技術の確立」を当面の連携課題とし、平成19年4月より協働による調査研究活動を開始した。</p>
取組の具体的な内容	<p>平群町の特産品である小菊やバラ栽培において、難防除害虫被害による品質の低下や防除労力負担の増加が大きな問題となっている。花卉類は特に外観上の品質の高さが求められることから、薬剤散布量が多い傾向にある。そこで、農薬のみに頼らない防除技術を確立・普及することで、生産安定や省力化、環境への負荷軽減等を図る。具体的な活動内容は以下のとおり。</p> <p>土着天敵を活用した小菊の減農薬栽培技術の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インゲントラップを利用した栽培圃場周辺におけるカブリダニ類の生育分布及び発生消長の確認（周辺の植生や環境の違いが天敵の種類や発生量等に及ぼす影響） ・防虫ネット被覆栽培施設内でのハダニとカブリダニ類の発生消長の確認 <p>天敵製剤を活用したバラの減農薬栽培技術の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バラ栽培におけるカブリダニ製剤の有効性の確認（カブリダニ活動条件の解明等） <p>なお、調査は、近大農学部矢野教授の指導を仰ぎながら、学生と県北部農林振興事務所、県農業総合センター普及技術課、平群町が行っている。</p>

農村地域への効果	土着の天敵や天敵製剤を活用して薬剤散布量を低減させることで、環境への負荷軽減や生産安定、生産者の防除労力や薬剤被爆量の低減、生産コストの低減を図ることができる。また、同技術を食用作物にも活用し、消費者ニーズに合ったさらなる安心・安全農産物として有利販売を行うことで地域農産物のブランド強化や農業者の経営改善、地域の活性化につなげることができる。
都市部の主体(企業や大学等)への効果	近大にとっては、地域密着型の研究テーマとして取り組むことができる。また、本活動を通じて学生が学んだ知識や技能は、実社会での様々な活動場面で活かされるものと思われる。
仲介者等の役割	
今後の課題	まずは花卉生産において、同技術を確立・普及することが当面の課題であるが、食用作物にも同様の展開を図っていくことで、一層の安心・安全農産物の安定供給体制整備の実現により真に環境と調和した農業生産を目指す。また、新たな平群ブランドの農産物開発も今後の課題である。
関連事業(国・都道府県等)	